

## 協同的探究学習の理念に基づく授業研究のポイント【野口北小学校 ver2】

○本時に身に付けさせたい力【わかる学力(思考力・判断力・表現力)】

- ・「本時の目標」と「授業を通して深めたい内容(本質)」を教師が明確にする。
- ・「本時のめあて」を児童に提示する場合は、手続き的な方法や条件(例:公式を使って求めよう、2段落から抜き出そう)を提示しない。大まかな方向性(例:台形の面積について考えよう、登場人物の気持ちを読み取ろう)を示す。

1 導入問題【具体的に考える問題】 ※導入問題と展開問題に取り組むことで、めあての達成につながる。

- 一人一人が主体的にアプローチでき、多様な考えや解法が可能な問題(非定型問題)を提示する。
  - ・児童が考えるきっかけとなる具体的な問いである。
  - ・教師が児童に具体的な図や資料、数値や文章、言葉で提示するものである。
  - ・既有知識を生かすことができる問い、日常生活や今までの経験などから考えることが可能な問い、思考の深まりが想定される問いである。児童を取り残さない。

2 個別探究1【一人一人が考える時間】

- 児童の思考の過程と根拠や理由を大切に一人一人の学びの時間とする。
  - ・ノートやワークシート、デジタル配信資料などに、図や言葉、計算式、色、矢印などを使い、考えた足跡を残す。児童が自分の考えを自由に表現できるよう教師は工夫する。ただし、児童がじっくり考え、考えをまとめたり、思考の過程を文章表現したりする場合は、鉛筆と消しゴムを使って、ノートやワークシートに「書く」活動を必ず行う。
  - ・自分なりの表現で、短い言葉でも表現する。答えだけでなく、そこに至るまでの考え方、根拠や理由を表現する。
  - ・教師は個別の支援や指導を行い、全ての児童が自分の考えを表現する。

3-1 協同探究【関連づけ】 ※教師は児童の考え方や発言を予想しておく。

- 多様な考え方や解法を根拠や理由とともに表現し、児童による関連づけや児童の気づき、新たな発見を出し合う。
  - ・児童は考えた足跡を自分の言葉で表現する。他の児童は、自分の考えとの共通点や相違点を意識して発表者の意見を聞く。
  - ・教師は児童の発言した言葉をそのまま短く板書する。関連づけたときの児童の大切な言葉を板書する。デジタル配信の場合は特に板書を工夫し、児童の考え方や思考の過程、児童の言葉を板書に残す。
  - ・教師は A と B を比較して共通点や相違点を考えさせたり、全体の共通点を考えさせたりする。ただし、児童によって類似や差異がある。教師がカテゴリーに分けるのではなく、児童一人一人の考え方や理由を大切に聞き取る。

3-2 協同探究【追究型発問(設定型・繰り返し型)】

- 教師の追究型発問により児童の思考を深める。さらに、一人一人の気づき、発見を表現する。
  - ・児童の発言を生かし、発言者に聞き返したり、他の児童や学級全体に聞いたりして、深く考えさせる。
  - ・教師は児童の考えを深めることのできる板書(発言のキーワード、書く位置、色)を工夫する。

【追究型発問(設定型)】※意図的に深い学びにつなげる発問

- ・教師が意図的に、本時の目標や授業を通して深めたい内容(本質)に迫る問いを投げかける。

【追究型発問(繰り返し型)】※児童の発言を生かして深い学びにつなげる発問

- ・考えの根拠を聞く・・・「なぜそう考えたのか」
- ・考えの意図を聞く・・・「どうしてそう考えようと思ったのか」
- ・全体的に見て聞く・・・「全体を見て気づくことは何ですか」「全ての考えに共通することは何ですか」

4 展開問題(個別探究2)

- 協同探究場面の思考の深まりを生かして自力解決を行い、学習内容の本質理解に迫る。
  - ・児童に学ばせたい本質に迫る問題、深く考えさせたい問題(非定型問題)を提示する。類似問題やドリル的な問題ではない。
  - ・協同探究を生かし、本質を理解して問題解決(自分の言葉や図、式などを使って説明)できているかを教師が見取る。